

令和8年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「夢をつなぐ、文化をつなぐ、地域をつなぐ」総合学科高校
「つなぐチカラ」（知識・技術・情報をつなぐ活用するチカラ、人と人をつなぐ協働するチカラ、自分と社会をつなぐ自立するチカラ）を育むことで、社会に貢献する人を育てる。
1. 多様な進路希望を持つ生徒に対し、「活用するチカラ」を育み、「夢をつなぐ（夢を叶える）」学校をめざす。
2. 多様な文化を認め、共に生きることで、「人権意識」、「他を思いやる心」を持つ「協働するチカラ」を育み、「文化をつなぐ」学校をめざす。
3. 「安全で安心」な学校生活、地域との連携の学びから、「自立するチカラ」を育み、「地域をつなぐ」学校をめざす。

2 中期的目標

1 <u>夢をつなぐ（確かな学力と進路実現）</u>
（1）生徒が達成感を感じる授業をめざし、「深い学び～視覚化・構造化・協働化～」をテーマに授業の充実・改善に取り組む。 ア 授業アンケート、授業充実研修、授業見学週間を活用し、「深い学び～視覚化・構造化・協働化～」をテーマに授業の充実・改善に取り組む。 生徒が自ら考える活動や課題に取り組む活動を取り入れ、主体的に学びに向かう力を養い、「深い学び」と達成感のある授業へとつなげる。 ※ 生徒向け学校教育自己診断③「授業は楽しく、集中して受けることができる」の肯定率を令和10年度には85%以上（R5 72%、R6 74%、R7 80%）となるよう授業改善に取り組む。 ※ 生徒向け学校教育自己診断⑥「授業に工夫している先生が多い」の肯定率を令和10年度には95%以上（R6 83%、R7 90%）をめざす。 イ ICTを効果的に取り入れ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」により深い学びにつなげる。1人1台端末を有効活用する授業実践を拡げるよう取り組む。 ※ 生徒向け学校教育自己診断⑩「ビデオ、スライドなどの視聴覚機器やコンピュータやプロジェクトを使った授業がある」の肯定率を、令和10年度までの3年間97%以上（R5 89%、R6 90%、R7 93%）を維持する。 ※ 教職員向け学校教育自己診断③④「コンピュータ等のICT機器が、授業などで活用されている」の肯定率を令和10年度までの3年間で100%に近づける。（R5 97%、R6 97%、R7 98%）
（2）希望する進路を実現できる「確かな学力」の育成 ア 「総合的な探究の時間」やコアカリキュラムを中心に教科間の連携を進めるとともに、キャリア教育や人権教育を通して生徒が自ら将来の生き方を考えることで、多様な進路希望を実現する。 ※ 生徒向け学校教育自己診断における⑫「学校生活において将来の進路や生き方について考える機会があり、進路指導が充実している」の肯定率を令和10年度には90%以上（R5 82%、R6 86%、R7 86%）をめざす。
2 <u>文化をつなぐ（「人権意識」が身についた「他を思いやる心」をもつ生徒の育成）</u>
（1）学校におけるあらゆる教育活動において人権教育を一層充実させ、生命と人権を尊重し、他を思いやる「豊かな心」を持つ生徒を育成する。 ア 在日外国人や障がい者に係る課題等をはじめ、様々な人権問題について偏見や差別を許さない態度とその解決をめざした教育を推進する。 イ 「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒」の学習状況や活動状況を校内で共有し、学校として個々の教育的ニーズに応じた支援の充実に努める。 ※ 生徒向け学校教育自己診断⑩「学校生活において人権や命の大切さ・社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率95%以上（R5 82%、R6 89%、R7 93%）をめざす。 ※ 保護者向け学校教育自己診断⑮「学校は生徒に人権や命の大切さ・社会のルールを守る態度を育てようとしている」の肯定率90%以上（R5 79%、R6 90%、R7 85%）をめざす。
（2）様々な国にルーツのある生徒がともに学ぶ本校の特色を最大限に生かし、国際的な視野や課題発見・解決能力、コミュニケーション能力を育むとともに、SDGsの視点から文化の多様性と持続可能な文化開発への貢献を理解する教育を推進する。 ア 学校行事、ホームルーム活動、地域行事への参画など、あらゆる機会を通して自己有用感を高めるとともに、相互理解を深めることで他を思いやる心を育む。 ※ 教職員向け⑭学校教育自己診断「在日外国人に対する偏見や差別のない社会をめざして、主体的な生き方につながる学習となるよう工夫している。」の肯定率を令和10年度には95%以上（R5 97%、R6 90%、R7 94%）をめざす。
3 <u>地域をつなぐ（安全で安心な学校づくりと地域に信頼される学校づくり）</u>
（1）生徒にとって納得感のある指導により、規範意識の醸成と個々の生徒への支援を行う。 ア 「成美マニュアル」を活用した教職員共通の生徒対応を通して、生徒の基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成をはかるとともに、いじめ防止対策委員会や教育相談会議等の情報の共有を通して、生徒が安全・安心に生活できる学びの空間を作る。また、情報社会において適切かつ安全に活用できる資質・能力を育成する情報リテラシー教育を進める。 ※ 生徒向け学校教育自己診断①「学校やクラスは楽しい」の肯定率を令和10年度には85%以上（R5 77%、R6 84%、R7 78%）をめざす。 ※ 生徒向け学校教育自己診断⑪「学校生活における先生の指導は納得できる」の肯定率を令和10年度には85%以上（R5 62%、R6 78%、R7 79%）をめざす。 イ 教育相談会議・ケース会議の開催や外部機関との連携により教育相談体制をさらに充実させ、保護者の協力も得ながら障がいのある生徒や課題を抱える生徒の支援を行う。 ※ 生徒向け学校教育自己診断⑨「担任の先生以外に悩みや相談に応じてくれる先生がいる」の肯定率を令和10年度には90%以上（R5 74%、R6 81%、R7 83%）をめざす。 ウ 薬物乱用防止研修、食物アレルギーに係る研修等を実施し、生徒の健康と命を守る。 ※ 生徒向け薬物乱用防止教室、教職員向け食物アレルギー対応研修を毎年実施する。
（2）生徒にとって充実感のある学校行事や部活動を通じて生徒の自主性、自己有用感を醸成する。 ア 学校行事や生徒会活動を通して生徒のリーダーシップを育てる。 ※ 生徒向け学校教育自己診断における⑮「体育祭・文化祭以外の学校行事（修学旅行等）は楽しく行えるよう工夫されている。」の肯定率を令和10年度には90%以上（R5 82%、R6 81%、R7 87%）をめざす。
（3）地域連携 ア 近隣中学校等との情報共有・連携を深め、生徒指導の充実を図るとともに、中学校との信頼関係を深める。 ※ 選抜試験合格者が在籍するすべての中学校を訪問し、当該生徒が入学した後の教育支援に資するための情報収集を継続する。 イ 保護者に対して学校から積極的に情報を発信することを推進する。 ※ 学校HP、連絡ツールなどにより家庭への情報発信を充実させる。保護者向け学校教育自己診断における（改訂）「学校HP・連絡ツールは役立っている」の肯定的意見を80%以上とする。 ウ 小中学校などの教育機関からの依頼・本校の運営に関わる委嘱者やその所属団体からの依頼・堺市および和泉市の公的機関や住民が主催するイベントへの参加依頼に対して、連携可能な内容であればすべて受け入れる。（新規）100%

大阪府立成美高等学校

	コミュニケーション能力の育成とSDGsの視点による文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献を理解する教育の推進 ア あらゆる機会を通して、相互理解を深め、自己有用感を高め、他を思いやる心を育む。	ことはもとより、「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒」「日本人生徒」それぞれの相互理解を通じて他を思いやる心を育むために、多文化理解学習や文化祭等の学校行事を実施する。	「在日外国人に対する偏見や差別のない社会をめざして、主体的な生き方につながる学習となるよう工夫している」の肯定率 95%以上[94%]をめざす。 ・海外ルーツの生徒、海外ルーツ既卒者・母語指導員による多文化理解行事を実施する。[1回] ・高大連携、および地域連携による「生と性を考える授業」等を2回[2回]実施する。	・ ・
3 地域をつなぐ（安全で安心な学校づくりと地域に信頼される学校づくり）	（1）生徒の規範意識の醸成と個々の生徒への支援 ア 「成美高校マニュアル」に基づく教職員共通の生徒対応を通した基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成、いじめ防止対策委員会等での情報共有を通した安全・安心の空間づくり イ 教育相談のさらなる充実 ウ 薬物乱用防止研修、食物アレルギーに係る研修等の実施 （2）生徒の自主性、自己有用感の醸成 ア 学校行事、生徒会活動を通したリーダーシップの育成 （3）地域連携 ア 地域から信頼される開かれた学校づくり	（1） ア・全教員輪番制による登校指導を毎朝継続して実施し、あいさつなどの言葉かけを行う。 ・高い規範意識を育み基本的生活習慣を確立させるため、きめ細かな生活指導を行う。 ・中高連携による生徒支援を充実させる。 ・生徒にとって安全・安心に生活できる学びの空間をつくるため、いじめ防止対策委員会や教育相談会議等を定期的に開催し、想定される生徒の課題に対する予防・早期対応を行う。 イ・カウンセリングマインド、共感的な姿勢で教育相談を進める。 ・担任以外の教職員にも生徒が相談しやすくなることを意識して、教職員が日常の教育活動において密にコミュニケーションをとる。 ・教育相談会議（毎週）により課題を抱える生徒の状況を共有、組織的に必要に応じた支援を行う。 ・SC, SSW との緊密な連携によるケース会議、校外関係機関との連携を図る。 ・生徒支援に係る機密情報を守秘義務のもと教職員全員が共有、すべての教職員で見守りや必要に応じた支援・指導にあたる。 ウ・生徒向け薬物乱用防止教室、教職員向け食物アレルギー対応研修を毎年実施し、生徒の健康と命を守る。 （2） ア・生徒会役員や部活動生徒のリーダーシップを育成するため、体育祭、文化祭等の学校行事や学校説明会等における企画運営を生徒が担うように組織し、活躍する場を適切に設定する。 （3） ア・近隣中学校等との情報共有・連携を深め生徒指導の充実を図るとともに、中学校との信頼関係を深める。 ・学校から積極的に情報を発信し開かれた学校づくりを推進する。 ・小中学校などの教育機関からの依頼・本校の運営に関わる委嘱者やその所属団体からの依頼・堺市および和泉市の公的機関や住民が主催するイベントとの連携。	（1） ア・遅刻回数を前年度[4529回]以下とする。 ・懲戒件数を前年度[13件]以下とする。 ・生徒向け学校教育自己診断の基本的生活習慣の確立に関する肯定率 90%以上[86%]をめざす。 ・生徒向け学校教育自己診断における⑩「学校生活において先生の指導は納得できる」の肯定率 85%以上[79%]をめざす。 イ・生徒向け学校教育自己診断の⑨「担任の先生以外に悩みや相談に応じてくれる先生がいる」肯定率 85%以上[83%]をめざす。 ウ・生徒向け薬物乱用防止教室を夏休みまでに外部講師を招いて実施する。[1回] ・いつでも全教職員が対応できるように、教職員向け食物アレルギー対応研修を年度当初に実施する。[1回] （2） ア 生徒向け学校教育自己診断における⑩「学校行事・部活動・生徒会活動に関する満足度」90%以上[87%]をめざす。 （3） ・選抜試験合格者が在籍するすべての中学校を訪問し、当該生徒が入学した後の教育支援に資する情報を収集する。 ・学校 HP、連絡ツールなどにより家庭への情報発信を充実させ、生徒向け学校教育自己診断における（改訂）「学校 HP・連絡ツールは役立っている」の肯定的意見を 80%以上とする。 ・連携可能な内容であればすべて受け入れる。（新規）[100%]	（1） ア・ ・ ・ ・ イ・ ウ・ ・ （2） ア・ （3） ・ ・

大阪府立成美高等学校

4 校務の効率化と働き方改革の推進	(1) 教育資源の有効活用と継承、ICT を活用した校務の効率化と働き方改革	(1) 部分改訂した成美マニュアルを活用すること・ICT 機器の利活用により校務の効率化を進めることで、積み重ねてきた教育資源の有効活用と継承を行い、教職員の事務作業に係る時間を軽減する。	(1) ・部活動の年間活動計画を遵守する ・年間の時間外在校等時間が720時間を超える教育職員ゼロを維持する [1名]	(1) ・ ・
----------------------	--	--	---	---------------